令和８年11月16日（月）
読売新聞　朝刊・地域面奈良

AIと共存 システム作り

川村・北大院教授語る

「ＡＩと人が協力して働くことが大事」と話す川村さん（奈良市で）



薬師寺月例 **まほろば塾**

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が15日、奈良市の薬師寺で開かれた。「シリーズ脳」（全3回）の2回目で、ＡＩ（人工知能）の研究をする北海道大大学院教授の川村秀憲さんが講演し、約200人が聴き入った。

川村さんは、ＡＩが誰もが満点を取れないような数学の大学入試問題で満点を取った例などを紹介した。ＡＩの高度化により、「いい会社に入って幸せになるための『勉強しなさい』という定番の魔法の言葉が成り立たなくなってきている」と指摘。学びは「『私にどう役立つのか』と一人称で語る時代になる」と語った。

その上で、人間が追求すべきなのは多様な価値観を伸ばすことや、後悔しないよう自らの意思決定などで、必要とされる人物像は「他人と違う意思決定や行動のできる破天荒な人」だと説明。「ＡＩと張り合うのではなく、共存して高め合えるような調和の取れたシステムを考えていきたい」と締めくくった。

次回の月例塾は12月20日、東北大応用認知神経科学センターの榊浩平助教が登壇する。